

札幌市立北野小学校の取組

1 研究のねらい

本校では、例年、同じ北野地区である市立札幌清田高等学校の生徒がボランティアとして授業に参加し、外国語活動等の学習を通して、地域の児童・生徒の交流が深まる学習活動に取り組んでいる。

今回、令和元年度 札幌市研究開発事業「国際理解に関する教育」研究推進校として、「国際理解に関する教育」の指導の充実を図ることで、より一層外国語に慣れ親しむこと、外国語を用いた活動を通してコミュニケーション能力を養うことをねらいとした。

2 取組内容

課題：外国語活動を通して、市立札幌清田高等学校のボランティア生徒とコミュニケーションを図るには、どのような英語表現を用いるとよいのだろうか。

(1) 事前アンケートの実施

本校の6年生児童が既に学習している英語表現を活用してコミュニケーションを図れるよう、市立札幌清田高等学校のボランティア生徒に事前アンケートを実施した。アンケートの内容は、授業の中で適宜取り上げ、6年生児童が興味をもって聞いたり話したりできるようにした。また、アンケート実施の際、ボランティア生徒に本時のねらいや流れを十分に説明し、ボランティアの協力の重要性を伝えた。

事前アンケート ①名前 ②ニックネーム ③誕生日 ④行きたい国 ⑤なりたい職業 ⑥好きな色 ⑦好きな季節 ⑧好きなスポーツ ⑨好きな食べ物 ⑩好きな教科

(2) グループの構成

コミュニケーションが十分に図れるよう、1グループ4～5人のグループにボランティア生徒1名が配属されるように、事前に人数の調整を市立札幌清田高等学校に依頼した。小学生とのコミュニケーションに興味のある、意欲的な高校生が配属された。

(3) 自己紹介を考える学習活動の設定

これまでに学習してきた表現を用いて、自分のことを相手に伝える自己紹介を考えたり、話す練習をしたりする学習に事前に取り組んだ。実際に伝える相手がいることで、何をどのように伝えるかを主体的に考えた。また、しっかり伝えようという意欲がより一層引き出されることにより、話す練習に対しても真剣に取り組んだ。

Hi! I'm Taiki. My birthday is July 2nd. I want to go to Italy.
I want to be a soccer player. I like soccer very much.

(4) ボランティア生徒に質問をし、その生徒のことを友達に伝える学習活動の設定

子どもは、高校生はどこの国に興味があるのか、何の職業に就きたいのか等、高校生の

応答を想像したりしながら質問の表現を考えた。

What is your name?

When is your birthday?

Where do you want to go?

What do you want to be?

What sports do you like?

自分が質問した内容については、全体の場で友達に紹介することにした。ボランティア生徒になりきって、“I”から始まる英語表現でボランティア生徒のことを話した。

(5) 友だちの「なりきり他己紹介」を聞き、更に関心を深める学習活動の工夫

友だちの外国語の表現を聞き取り、メモをしたり、更に質問をしたりする活動を取り入れた。キーワードを聞き取ることで、外国語でもコミュニケーションを図ることができるようにした。

また、指導者が“Why do you want to go to Finland?”など、異なる視点で高校生に質問をすることで、6年生の質問では引き出されない、外国の素晴らしさを感じる回答もたくさんあった。子どもの外国への興味・関心を高めるものとなっていた。

(6) 高校生の英語表現を聞き、外国語を学ぶ意欲を引き出す場面の設定

ボランティア生徒の中には、グローバルコースを履修している生徒がいるので、高校生を代表して、自己紹介を行う場面を設けた。高等教育までの英語学習で身に付けた英語表現を駆使して話す高校生の真剣な姿に、6年生の意欲が高まることを期待した。

3 成果と課題

(1) 成果

伝えたい相手がいることで、「自分のことをどうやって知ってもらおうか」と自分ごととして自己紹介の表現を考えることができた。相手意識をもつことは、コミュニケーション能力を高める活動に必要である。外国語での表現が苦手だと感じている児童も、ボランティア生徒を目の前にしたときは、少しでも外国語で話そうとする姿が見られた。

また、児童が考えた他己紹介から発展して、指導者が更に深い質問をしたときは、ボランティア生徒から、「フィンランドからの留学生がクラスにいるので、その友達の国に行ってみたい。」「雪国のイメージがあるので、その世界を見たい。」などの話を聞くことができた。6年生だけの交流では出てこない考えに触れ、国際理解への第一歩とすることができた。

グローバルコースのボランティア生徒の英語での自己紹介を聞き、6年生は、高校生に対する憧れの気持ちをもつことができた。また改めて外国語を学ぶ意欲を高め、「自分もこんな風に英語で話してみたい。」という思いをもつことができた。

(2) 課題

市立札幌清田高等学校との日程調整、具体的な内容の打ち合わせ、生徒が小学校に来校しての打合せと、事前の準備が必要である。来年度以降も、この学習形態を続けていくに当たり、市立札幌清田高等学校の協力を得て、2校の連携と計画的な準備が重要となる。

また、高校生との交流を通してこそ充実する学習内容について、今後も更に検討していく。